

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 777 号	氏名	池岡 俊幸
学位審査委員	主 査	柳原克紀	
	副 査	大園恵幸	
	副 査	松田尚樹	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 tribbles homolog 1 (TRIB1)の遺伝子多型は、総コレステロール(TC)、LDLコレステロール(LDL-C)、HDL コレステロール(HDL-C)、中性脂肪(TG)、虚血性心疾患のリスク上昇との関連が報告されている。また、TRIB1 は血管平滑筋の増殖を制御し、動脈硬化を認める動脈に選択的に過剰発現していることが知られており、TRIB1 と動脈硬化について何らかの関連があることが示唆される。本研究は、TRIB1 rs2954029 遺伝子多型と脂質及び動脈硬化との関連について検討しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 2008年から2010年の期間に長崎県五島市において一般住民健診を受診した地域一般住民のうち調査に同意が得られた2341人(男性858人、女性1483人)を対象とした。脂質、動脈硬化関連マーカー、頸動脈内膜中膜複合体厚、ならびに虚血性心疾患の既往とTRIB1 rs2954029との関連について解析しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 TRIB1 rs2954029のアレル頻度はAA群597人、AT群1181人、TT群563人であり、アレル頻度に男女差を認めなかった。女性のみを対象群とした解析において、logTGでは、AA群はAT群またはAT+TT群と比較して有意に高値であった。遺伝子多型と生活習慣病や動脈硬化性疾患との関連に性差が存在することが報告されており、TRIB1 rs2954029に関しても同様のことが示された。</p> <p>以上のように本論文は動脈硬化性疾患の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			